



特 別  
^13  
4460  
4



A13  
4450  
4

上野寺



(九)

歎八箇丈娘乃法公

八之卷

幸の初剛カキミたるは、いづれも二人とも母が好む心なり。云々  
 を取りしは、津路をたしむる女も、侍少延喜天皇の御心  
 なる和歌のなると今時の非難後ハある中、とをたしむる  
 事にて、いづれも四人あせ出ぬ乃好むと、いづれもあせ出ぬ  
 とし、ておぼゆるふひ外のひかす、いづれもあせ出ぬ  
 名ののくせとして、物言男及よせ、中つてあつて、今乃  
 希乃ミコ、境内よりあつて、いづれもあせ出ぬ、いづれもあせ出ぬ  
 と云て、我が家いのちに、いづれもあせ出ぬ、いづれもあせ出ぬ  
 切あつて、いづれもあせ出ぬ、いづれもあせ出ぬ、いづれもあせ出ぬ  
 人のいづれもあせ出ぬ、いづれもあせ出ぬ、いづれもあせ出ぬ







舟をさげ



知家持才

浅草いかり

とくく多よあづんくゆせ夜あくるよ秋くうちあ  
 危公信いさげを公中そりや若井く親の顔目之は  
 ありししく相書と身別を公よせぬの月の影を  
 ぞりしとぶまん只二世を母も留りしとよよそは  
 血気あはると後んどくもあをそもと各血気かしく兄弟  
 と起流とやいく胸に酒漬くね挨拶か仲元信長盛  
 時常學独よ玉まどく赤く胸の公中と二親を挨拶たぐり  
 かつ中ありくぐんわぐわのさほあけみまなり信長  
 西親よとあれこげすくれをよ兼修くやまはう十回  
 口とらうくふい流たをよあせんくあんがまをさふ  
 かん八一家をそとえをりくろく他人の中へて名ひせ  
 ぞ門にともあざうくと信神のほくまをいへる

一五のわうそこのあつてまんやういふてまあ  
 物タえとあありと流くあくあせられやうやう  
 喰てあつと人ひのびあてあび八とこの世界は  
 わさくくやう流くも一院あてあまうすく  
 一六あはりの人あちあすは今ねをさうまやん  
 平のりく流くも三とわんの信也あれ  
 親子あまういふのああもあつたれこれ  
 といのあうびこのあはのあんとあづがあう  
 ありあられはうハく信だもあんと人あか  
 くのあはまはうあうううてけあま  
 せあといあくこのあまあまああびえく親  
 といかあうくあれあめあつたを死すもあ









いづれかたごとくして人よかき念やと後さぬのけいどしひまよ  
 ちぬかたのけいどしひまよと後さぬのけいどしひまよ  
 一かたのけいどしひまよと後さぬのけいどしひまよ  
 でかたのけいどしひまよと後さぬのけいどしひまよ  
 のけいどしひまよと後さぬのけいどしひまよ  
 ろけいどしひまよと後さぬのけいどしひまよ  
 さのけいどしひまよと後さぬのけいどしひまよ  
 どのけいどしひまよと後さぬのけいどしひまよ  
 がけいどしひまよと後さぬのけいどしひまよ  
 うのけいどしひまよと後さぬのけいどしひまよ  
 げのけいどしひまよと後さぬのけいどしひまよ

わらわらううそのほみぞを新すをそれごとく飛んてんとき  
 せんかたのけいどしひまよと後さぬのけいどしひまよ  
 のけいどしひまよと後さぬのけいどしひまよ  
 とのけいどしひまよと後さぬのけいどしひまよ  
 はのけいどしひまよと後さぬのけいどしひまよ  
 りのけいどしひまよと後さぬのけいどしひまよ  
 らのけいどしひまよと後さぬのけいどしひまよ

十 實の自義記一編

業のけいどしひまよと後さぬのけいどしひまよ  
 一人よけいどしひまよと後さぬのけいどしひまよ







深より

男が助外



源八

何うしてはうはんよりしやサトそれグー々意とお  
 めひ切るとそのむぐら公我りりりかきお二や乃内命一  
 けり一交ハ月一申ぐらとあんぐらぐら一きねぐら  
 おひきまるとんぐら一可入ハ先づ一しきりおる世のそ  
 め一これぐらわんめがふはあすけのあはれひひきま  
 ちぢぐら一しきりけがめくもあかめんぐらあまのめ  
 けり一今わらう一世乃唐く念郎一くしをあまの  
 親とてはあつてこうあまを中とぬくも一乃乃  
 とい雲花よとくしとあしけと母よかひとつと  
 一のハか一らうよ申信かう一近所乃男乃り合  
 二つ二つの業のそとあまはすま一きひけりけり  
 ぐらよらう一のせらんをか一こい一はらやたハ

ちまのハ深みふまじやがすけくとなくとがらうと  
 から勤めとらう二年あまのくまらあまの  
 三つにわらうものしきりけりけりけりけり  
 こそれとわらうのちかあまのしきりけり  
 めとんのかぬ世界とそと一乃一考ハのさ  
 ちかそと今かそひわをせけりけりけりけり  
 いらくんはむらむらむらむらむらむらむら  
 目しよまきいむらむらむらむらむらむら  
 だまのむらむらむらむらむらむらむらむら  
 ぶのらあまのむらむらむらむらむらむら  
 一乃一むらむらむらむらむらむらむらむら  
 一乃一むらむらむらむらむらむらむらむら





夫ハキレハシクナミヤサキニシテ  
 毛形モトハシクシテシテシテ  
 トラノモトハシクシテシテシテ  
 夫ハキレハシクナミヤサキニシテ  
 毛形モトハシクシテシテシテ  
 トラノモトハシクシテシテシテ  
 夫ハキレハシクナミヤサキニシテ  
 毛形モトハシクシテシテシテ  
 トラノモトハシクシテシテシテ

おりうもいふ事とくひあきくせし  
 より幼女のよは次巻の紙に書くと  
 くしつてかゝる後市やうおが  
 建といふは幼女お采とくといふ  
 親のいふことお采乃中ドカラ  
 乃ほらぞしつてお中ドカラ  
 夫ハキレハシクナミヤサキニシテ  
 毛形モトハシクシテシテシテ  
 トラノモトハシクシテシテシテ  
 夫ハキレハシクナミヤサキニシテ  
 毛形モトハシクシテシテシテ  
 トラノモトハシクシテシテシテ

上野

三



いよいよ夫一もれまのりまふひかゝりてそふれはつゞにぬれ  
あはざし公を一世よそくし一もいふもとてよ川よき老公ハ  
入ぬ波ねまけ一もちのてくちよおをりてはようせぬたさ  
西公をまきまを乃西帳よりくれしこものぬれれを  
新くせしつへつり今れ身まきまよとせぬの身あつてくち  
ちんたつちしぬれあくは今お累出候乃おじよ一とぬれ  
ぬて津市はよそくめいこを五板せしぬれ一かき二親よそ  
かまぬせまきまふらぶ乃おふにいかせうまぬとせぬり  
お笑ひしりかきまふらぶ乃おふにいかせうまぬとせぬり  
かかト松よおぬぬはいつりかきまふらぶしぬれぬれぬれ  
しとふたとせぬぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ  
男色区相共々共々共々

男色比叟鳥 六册 奥村親妙政信画作  
和漢若道鑑 衆道傳來記

